編集者への手紙 *Letters to the Editor*

スポーツ鍼灸委員会の取り組み7 第65回全日本鍼灸学会北海道大会のスポーツ企画について

櫻庭 陽¹⁾、池宗佐知子²⁾、泉 重樹³⁾、金子 泰久⁴⁾、近藤 宏¹⁾
玉地 正則⁵⁾、藤本 英樹⁶⁾、吉田 成仁²⁾、吉田 行宏⁷⁾、古屋 英治⁴⁾

- 1) 筑波技術大学保健科学部
- 2) 帝京平成大学ヒューマンケア学部
- 3) 法政大学スポーツ健康学部
- 4) 呉竹学園東洋医学臨床研究所
- 5) 不動前鍼灸治療院
- 6) 東京有明医療大学保健医療学部
- 7) 明治国際医療大学鍼灸学部

Introducing the Efforts of Acupuncture and Moxibustion Committee of Sports Part.7; Summary of the sports acupuncture and moxibustion plan in the 65th Annual Congress of the Japan Society of Acupuncture and Moxibustion in Hokkaido.

SAKURABA Hinata¹⁾, IKEMUNE Sachiko²⁾, IZUMI Shigeki³⁾, KANEKO Yasuhisa⁴⁾,
KONDO Hiroshi¹⁾, TAMACHI Masanori⁵⁾, FUJIMOTO Hideki⁶⁾,
YOSHIDA Naruto²⁾, YOSHIDA Yukihiro⁷⁾, FURUYA Eiji⁴⁾

キーワード：鍼灸、冬季スポーツ、オリンピック・パラリンピック

Key words: Acupuncture and Moxibustion, Winter sports, Olympic and Paralympic

2016（平成28）年の全日本鍼灸学会学術大会は北海道札幌市で開催されます。我々は2020年東京オリンピック・パラリンピックへ向けて、学術大会でスポーツ鍼灸に関する企画を実施しています。2014年の愛媛大会では、現在までのスポーツ鍼灸の総括と今後の目標を提示しました¹⁾。翌年のふくしま大会では、サッカー・ブラインドサッカーを通してスポーツ鍼灸の可能性を再考しまし

た^{2,3)}。北海道大会では実行委員会の企画とともに、多数のスポーツに関する企画を予定していますので、以下に紹介します。

北海道では冬季スポーツが盛んです。冬季オリンピック競技にはアルペンスキーやジャンプ、スケート、スノーボード、カーリング、アイスホッケーなどがあります。北海道では小さい時から授業やクラブ活動、少年団などを通してこれらの競

技に慣れ親しんでいます。その結果、多くのオリンピック代表選手やメダリストを輩出しています。同時に、鍼灸師がトレーナーまたは治療家として冬季スポーツの選手を支えています。北海道大会では、冬季スポーツの障害についての講演や、冬季スポーツの選手やそれを支えるトレーナーや鍼灸師によるシンポジウムを企画しています。

スポーツ鍼灸の実技に関する企画も予定しています。最近、筆者はイギリスとドイツのスポーツ現場における鍼治療について調査しました。欧州人と日本人の鍼治療の大きな違いは、日本人の鍼治療の方が弱刺激であり、欧州のスポーツ選手もそれを好んでいるということでした。また、欧州人は傷害の治療が中心であり、日本のように風邪の初期症状の改善やコンディショニングなど、鍼灸を選手の包括的サポート手段として考えていないことも大きな違いでした。そのような違いから、日本の鍼灸師はとても重宝されていました。このような日本鍼灸の特長は、世界に出なければ気づかないと思います。この辺も含めて、世界に通用する弱刺激による鍼治療を、世界のスポーツ鍼灸事情と共に伝えられる企画を考えています。

最後に、委員会が取り組んでいるスポーツ鍼灸に関するレビューの経過をある企画の中で紹介したいと思います。スクリーニング作業を進めるなかで私が感じたことは、日本語の文献が意外と多く、なかには質の高い報告も結構あることです。あるプロスポーツのトレーナーの保有資格率が、理学療法士やアスレティックトレーナーよりも鍼灸が高かったり、若いときからスポーツ傷害の治療やコンディショニングのために鍼灸を受ける選手がいたりすることが、日本のスポーツにおける鍼灸を表しているように思います^{4,5)}。つまり、鍼灸とスポーツが密接に関わり、それらを容易に結びつけて考える発想が、日本のスポーツに関わる人々にはあるのだと思います。さらに、日本の鍼灸師は選手を全身で捉えて、サポートする考えができています。これらが、日本鍼灸の特長であり、またスポーツ鍼灸の定義に迫る一つのヒントであると思います。

東京オリンピック・パラリンピックを契機に活動を始めましたが、我々の目標は競技の季節、国

や人種を問わず、鍼灸でスポーツをサポートすることです。北海道では翌年に冬季アジア札幌大会が開催され、また、2018年と2022年には韓国の平昌と中国の北京で、アジア圏で連続となる冬季オリンピックの開催が決まっています。2020年の東京と共にアジアのスポーツはますます盛り上がると思います。北海道大会は日本の鍼灸が世界のスポーツ界で躍動するための契機となる大会になると期待しています。

文 献

- 1) スポーツ鍼灸委員会 近藤宏 他. スポーツ鍼灸委員会の取り組み 東京オリンピック・パラリンピックを通過点にして. 全日鍼灸会誌. 2014; 64(3): 171-3.
- 2) スポーツ鍼灸委員会 吉田成仁 他. スポーツ鍼灸委員会の取り組み3 全日本鍼灸学会学術大会シンポジウムについて. 全日鍼灸会誌. 2015; 65(1): 47-8.
- 3) スポーツ鍼灸委員会 池宗佐知子 他. スポーツ鍼灸委員会の取り組み5 第64回全日本鍼灸学会学術大会を終えて. 全日鍼灸会誌. 2015; 65(3): 203-4.
- 4) 妻木充法. 世界のトレーナー ワールドカップとJリーグ. 社会鍼灸学研究. 2014; 9: 5-9.
- 5) 花岡裕吉 他. 三重県高校水泳選手を対象とした鍼灸に関する実態調査. 東方医学. 2013; 29(2): 29-36.